

# くらしと自治

## 新しいふるさと

「合併した七つの旧市町の色を出して、全国と東近江市を結ぶ懸け橋になってほしい」。

東近江市観光協会が全国公募で決めた観光キャンペーン大使の名前「レインボー大使」の由来だ。観光を通して市をPRするとともに、市民の一体感を生み出したいとの思いが込められている。

東近江市は二〇〇五年二月に八日市、永源寺、五個荘、愛東、湖東の旧一市四町が合併して発足した。市と町の合併は、京滋で初めてだった。さらに今年一



人口は十一万四千二百二十八人（七月一日現在）。面積は約三百八十三平方キロで、山林が約37%、田畑が約24%を占める。湖東平野のほぼ中央に位置し、市の真ん中を鈴鹿山系を源流とする愛知川が流れる。名神高速道路・八日市インターチェンジ周辺に企業が集中して立地している。昨年の観光客は約二百二十六万人。耕地面積は約八千六百八十軒（二〇〇五年四月現在）で県内一。

### 東近江市

八日市・永源寺・五個荘・愛東・湖東・能登川・蒲生

れる近江商人屋敷が並ぶ五個荘金堂地区、紅葉の名所として知られる永源寺や湖東三山の百済寺、百疊敷き大風を揚げる八日市大風まつりなどだ。市内に散在する観光スポットをいかに連携させ、観光客にPRするか。市は知恵を絞っている。

同市は愛知川流域を中心に田

## 7つの情緒虹色に輝け

月、旧能登川、旧蒲生の両町を編入合併。鈴鹿の山並みから琵琶湖までが市域となった。同市には地域の伝統文化や歴史を基にした観光地やイベントが豊富にある。白壁の風情あふ

園地帯が広がり、耕地面積は県内一を誇る。道の駅「あいとうマーガレットステーション」などでは、主要農産物の近江米のほか、特産メロンなどの果物、野菜が並び、市内外の買い物客

でにぎわう。名神高速道路・八日市インターチェンジとJR能登川駅が市の玄関口となっている。今年五月には、同市永源寺地区と三重県いなべ市をトンネルなどで結



家族連れらでにぎわう道の駅「あいとうマーガレットステーション」（東近江市妹町）

ぶ石樽峠道路の工事が始まった。完成すれば、冬季の通行が可能になり、滋賀県と東海地域をつなぐ幹線道路としての期待が大きい。

東近江市は二度目の合併から半年経過した。県内初の里山保全活動の支援を目的とした条例の制定を目指すなど、独自の施策も打ち出し始め、注目を集めている。

### イチ押し

川遊び キャンプ 最高

染谷克己・東近江市産業振興部長 鈴鹿の山並みから琵琶湖までを抱える自然が一番の魅力で、これからの季節は愛知川上流での川遊びや山のキャンプが最高です。ほかに、万葉集ゆかりの蒲生野や、能登川水車とカヌーランドなどさまざまな観光施設が整っている。訪れた際には、特産の米や果物、永源寺こんにゃくなどをぜひ味わってほしい。